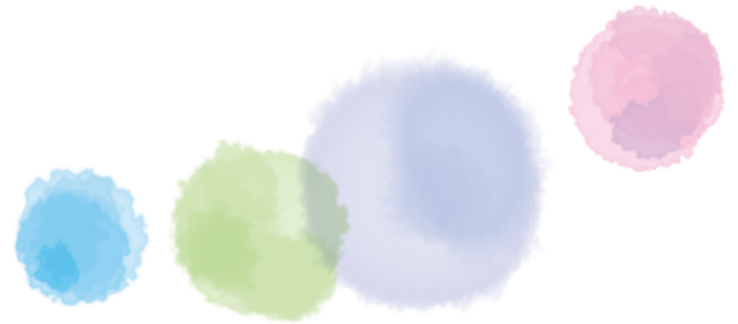


令和5年度 成果報告会 発表資料



2024年1月30日

大分県教育庁

地域や学校に根ざした導入校の現状と課題

1 高等学校を取り巻く状況

- 高校再編(H17～H27)で、複数学科を一校に統合した**総合選択制高校**を設置
- 地域の小規模校には、**幅広い学力層の生徒**が入学し、同じ教室内、かつ同じペースで学習に取り組む状況
- 地域の高校では、大自然や伝統文化などの恵まれた**地域資源を強み**として、H28年度から**高校の魅力化**を進めているところであり、総合的な探究の時間等において、**地元**に根ざした**特色ある教育活動を実践**
- 小規模校ならではの生徒に寄り添う**丁寧な学習指導**等により、**高い満足度**を維持

2 取組の必要性

- 学科規模の縮小や小規模校化が進む中で、生徒・教員数ともに**確保が難しい**状況
- 地元の中学生が**行きたい、学びたい**と思う**魅力ある学校**づくり
- 入学者の増加、**地域を担う人材**の育成、結果として**地域の活力の創出**
- 中学生が地元の高校に進学しても、安心して**個々の進路実現**に向かって邁進できるような学校の体制づくり

3 取組の目的・目標

①A: 習熟度別授業配信型 (英語・数学等で習熟度に応じた授業を小規模校に配信)

→ 中山間地域の小規模校で、生徒の**多様なニーズに応える学習指導体制**の構築

配信校	受信校
中津南	耶馬溪校、久住高原農業

②B: 専門科目特化型 (地域人材の育成を目指して福祉系・土木系科目を配信)

→ 中山間地域の高校生の**専門的なスキル向上**を図り、**先端技術**等に係る授業の提供

配信校	受信校
大分南	耶馬溪校(生活福祉コース)、佐伯豊南(福祉科)
国東	三重総合(総合選択制科目 測量)

③C: 産学連携事業配信型 (企業と連携したSTEAM教育の実践活動を配信)

→ 地域協働による**地域人材の育成**や、生徒が**切磋琢磨できる環境づくり**の促進

配信校	受信校
情報科学	耶馬溪校(情報会計コース)、国東(ビジネスITコース)

4 育成を目指す資質・能力

- 異なる価値観をもつ多くの人々と協働し、得た情報を整理しながら**自分の意見**を述べる力
 - 限定的な人間関係を築いてきた生活環境に変化を与え、自分と異なる価値観や考え方をもった、他者との交流を通して、自分の考えを組み立て、分かり易く伝える力や状況に応じた対応力を育成。
- 課題解決に向け、仮説をたて、**調査、実践、検証から改善**へつなげる探究的な力
 - 地域が抱える課題や、強みとなる地域資源をもとに、地域の全体像や将来像をイメージし、より良いものを創造するデザイン思考や創意工夫の精神を育成。
- ワンランク上の学習内容に挑戦し、**学び続けようとする意志、意欲**
 - ワンランク上の習熟度別授業を受講することで、難易度の高い問題や課題に挑戦する力や、意欲をもって学び続けようとする姿勢を育成。
- 地域人材の育成や地域の活力増進につながる、**地域への理解や愛着、責任感**
 - 地元の強みや、地域が解決すべき課題を知る機会を設定することで、生まれ育った故郷のことを主体的に考え、将来的に地域振興を支えていこうとする人材としての資質を育成。

具体的な取組(遠隔授業1)

A : 習熟度別授業配信型



中津南 → 久住高原農業



中津南 → 耶馬溪

【課題】

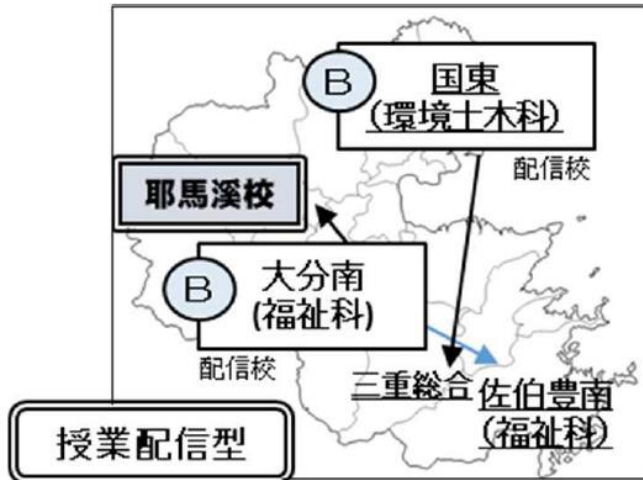
○小規模校において、幅広い学力層の生徒が同じ教室内、かつ同じペースで学習に取り組む状況であり、生徒の進路希望に即した教育活動の提供が難しい

【取組】

- ・耶馬溪校2クラス編成、久住高原農業高校3クラス編成にて実施
(本事業受講者は、大学・短大・専門学校など、上級学校への進学希望者)
- 少人数クラス編成により、より生徒の進路目標に即した学習内容の提供が可能
- 遠隔授業を受講している生徒のみならず、他クラスの生徒においても、学習意欲・成績ともに向上

具体的な取組(遠隔授業2)

B : 専門科目特化型



大分南 → 耶馬溪



国東 → 三重総合

【課題】

- 小規模校において、同年代の考え方や発想を取り入れ、視野を広げる学習機会が必要
- 専門の教員がおらず、より専門的な学習内容が提供できていない

【取組】

- ・福祉系科目
 - 座学をはじめとする授業
 - 3校合同による海外(デンマーク)の高校生と意見交換
 - 生徒による体験的学習の報告・発表会を実施し、改善点の検証
- ・土木系科目
 - 座学をはじめとする授業
 - 最新技術などを用いた実技指導

具体的な取組(遠隔授業3)

C:産学連携事業配信型



情報科学 → 国東



情報科学 → 国東

【課題】

○情報系の先端技術の活用し、より実践的な学びを取り入れていく

【取組】

・毎日課題の提供

→採点にとどまらず、コメントなどを記載し、生徒とのコミュニケーションを図る

→生徒から、授業への質問などが書き込まれるようになった

・生徒の活動を多く取り入れた授業

→生徒が問題を解き、他者との教えあう時間

【課題】

- ①遠隔授業を、より対面授業に近づける機器設定。
- ②配信校と受信校の授業時間に対する対応。
- ③受信生徒とのコミュニケーションのはかり方の検証。
- ④遠隔授業における評価について検証。

【本県における対応】

★機器構成

- NeatBar(カメラ・マイク・スピーカー一体型)
- 大型モニター
- ZoomRoomsを使用。
 - ・・・1タップにより、接続・画面共有。
- MetaMojiClassRoom
 - ・・・リアルタイムで課題の配布、支援。

★生徒の活動を、リアルタイムに確認・支援できる機器・アプリを活用することにより、配信教員が授業に集中できる環境設定にすることができた。



【課題】

- ①遠隔授業を、より対面授業に近づける機器設定。
- ②配信校と受信校の授業時間に対する対応。
- ③受信生徒とのコミュニケーションのはかり方の検証。
- ④遠隔授業における評価について検証。

【本県における対応】

受信校	久住高原農業	配信校	中津南
1限目	8:45～9:35	1限目	8:25～9:15
2限目	9:45～10:35	2限目	9:25～10:15
3限目	10:45～11:35	3限目	10:25～11:15
4限目	11:45～12:35	4限目	11:25～12:15
5限目	13:20～14:10	5限目	13:00～13:50
6限目	14:20～15:10	6限目	14:00～14:50
7限目	15:20～16:10	7限目	15:00～15:50

★授業担当者(配信校)については、受信校における授業時間に合わせて、+1時間を授業時間としてカウントする対応。
(教育人事課と連携)

★授業担当者(配信教員、受信校立ち合い者)間による、生徒状況や授業進捗について、情報共有。

【課題】

- ①遠隔授業を、より対面授業に近づける機器設定。
- ②配信校と受信校の授業時間に対する対応。
- ③受信生徒とのコミュニケーションのはかり方の検証。
- ④遠隔授業における評価について検証。

【本県における対応】

★対面授業の実施時期

- 数学、英語等・・・1学期前半(5～6月)に実施
- 専門科目・・・・・・学年末(1～3月)に実施

★授業中

- グループワークを取り入れた学習に重視
- 受信側の生徒数が10名を超える授業については、配信側にサポート教員を配置。
(課題の進捗状況をリアルタイムに確認・採点)

★家庭学習用課題

- 情報・・・MetaMojiClassRoom、またはTeamsなどを活用し、毎日課題の提供。
(課題の提出時に、生徒から授業の進捗や、内容について要望あり)

【課題】

- ①遠隔授業を、より対面授業に近づける機器設定。
- ②配信校と受信校の授業時間に対する対応。
- ③受信生徒とのコミュニケーションのはかり方の検証。
- ④遠隔授業における評価について検証。

【本県における対応】

★習熟度別授業(数学・英語)・・・遠隔授業において、応用クラスの授業を実施

○評価の整合性

- 年度当初に、シラバスなどを活用し、受信校の評価基準について共有。
- 考査問題の作問段階に、基礎クラス担当教員との協議。
- 中間・期末・学年末考査など、各考査の採点度に、生徒の学習状況の共有。
- 学期末・学年末の評価について、素点、課題提出状況、学習状況をもとに、配信教員が協議用資料を作成し、評価について協議。

本構想において、実現する成果について

(1) 学びの基礎診断等により把握する生徒の学力の定着・向上の状況

	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
目標値		C3 以上60%	C3 以上70%	B層 5名以上
実績値	平均値D2	C3 以上30.1%	C3 以上37.5%	B層 4名

(2) 免許外教科担任制度の活用件数

	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
目標値		4	5	5
実績値	0	2	2	2

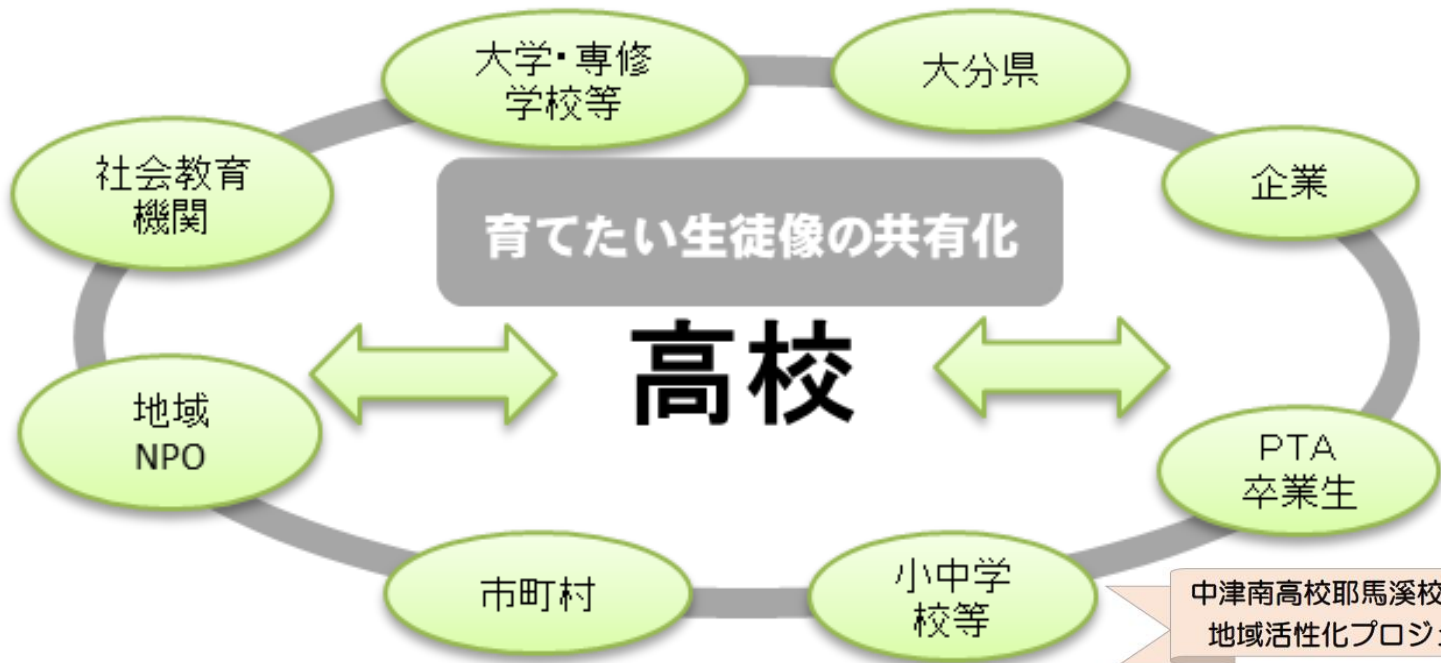
(3) その他、管理機関が設定した成果目標

成果目標①: 受信校生徒の4年制大学への進学者数

	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
目標値		6	8	10
実績値	4	4	5	

成果目標②: 授業を受けることで自分の学力が向上していると思う生徒(割合)

	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
目標値		73.0%	76.5%	80%
実績値	69.6%	85.9%	90.2%	87.5%



地域人材の活用

- ・学校と地域とをつなぐ人材を発掘
 - 商工観光労働部など関係機関と連携
 - キャリア教育における小中高の連携
 - 地域を担う人材づくり

コンソーシアムの活用

- ・構築したコンソーシアム(共同事業体)を積極的に活用
 - 身に付けさせたい力・育てたい生徒像の共有化

中津南高校耶馬溪校 2 学年 地域活性化プロジェクト

中津南高校耶馬溪校 2 年生は、総合的な探究の時間という授業で「持続可能な耶馬溪地域を目指して」というテーマのもと、地域の方々の協力を得ながら探究活動を行ってきました。その活動のまとめとして、下記の日程と場所で商品販売などの検証活動を行います。1 年半かけて行った探究活動の集大成となるイベントです。多くの方にご来場いただけると幸いです。

○日時 令和 5 年 11 月 22 日(水) 11:00～14:00(商品がなくなり次第終了)
 ○会場等 ※各会場で本活動に関するアンケートを行います。ご協力をお願いします。

- ☆Special thanks～探究活動にご協力くださった地域の方々～
- | | |
|-----------------------------|--------------------|
| 上西昭子さん [brise de lune(カフェ)] | 竹本和也さん [手打ちそば 菊] |
| 石原聡一郎さん [耶馬溪ふるさと村 惣菜館] | 今井朝美さん [旧平田郵便局] |
| 田上晴彦さん [タイニーハウスジャパン] | 高橋和美さん [道の駅 耶馬トピア] |
- 問い合わせ先 中津南高校耶馬溪校 0979-54-2011

本事業の成果・総括

地域人材の活用

- ・学校と地域とをつなぐ人材を発掘
 - 商工観光労働部など関係機関と連携
 - キャリア教育における小中高の連携
 - 地域を担う人材づくり



コンソーシアムの活用

- ・構築したコンソーシアム(共同事業体)を積極的に活用
 - 身に付けさせたい力・育てたい生徒像の共有化

【成果】

○コンソーシアムを構築し、活用することにより、地元愛はもとより、地域資源を活用した学びを推進することができた。

○高校生による小・中学校への出前授業など、学んできた内容を還元し、他校種との連携を図ることができた。

本構想において、実現する成果について

(1) 地域課題の解決等の探究的な学びに関する科目等の数

	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
目標値		7	9	11
実績値	5	5	5	5

(2) 地元自治体等の関係機関とコンソーシアムを構築している学校数

	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
目標値	0	4	4	5
実績値	0	4	4(CS1校含)	5(CS4校含)

(3) その他、管理機関が設定した活動指標

活動指標①: 遠隔授業の取組についてメディア等を通じて情報発信した回数

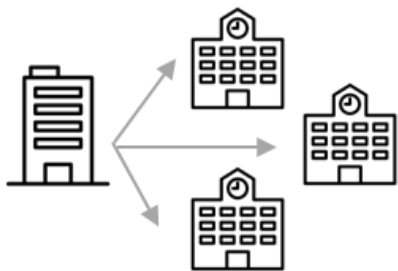
	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
目標値		8	13	16
実績値	0	0	0	13

活動指標②: 県主催の高校魅力化に係る研修会への地域からの参加者数

	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
目標値		4	17	21
実績値	0	0	20	48

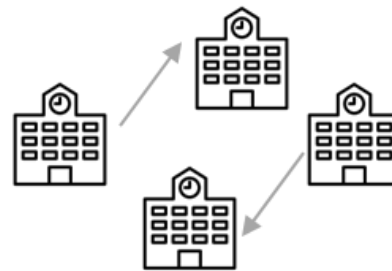
①遠隔教育の拡充

[Aタイプ] 配信センター方式



大分市内の**配信センター**から
地域の学校に**習熟度遠隔授業**を配信
(実施案例：数学、英語など)

[Bタイプ] 学校間連携方式



専門科目等を実施する学校から
地域の学校に**多様な科目の遠隔授業**を配信
(実施案例：商業、福祉、環境土木など)

◆校時の調整について

【現状】校時の差が少ない午前中のみの実施

【課題】午後に実施できる校時対応などの検討

◆評価方法について

【現状】学校間(1:1)で実施

【課題】受信校が複数校の場合の評価方法の確立

②地域との連携による高校の魅力化

学びの充実に向けた連携・協力体制

地域人材の活用

- ・学校と地域とをつなぐ人材を発掘
→商工観光労働部など関係機関と連携
→キャリア教育における小中高の連携
→地域を担う人材づくり



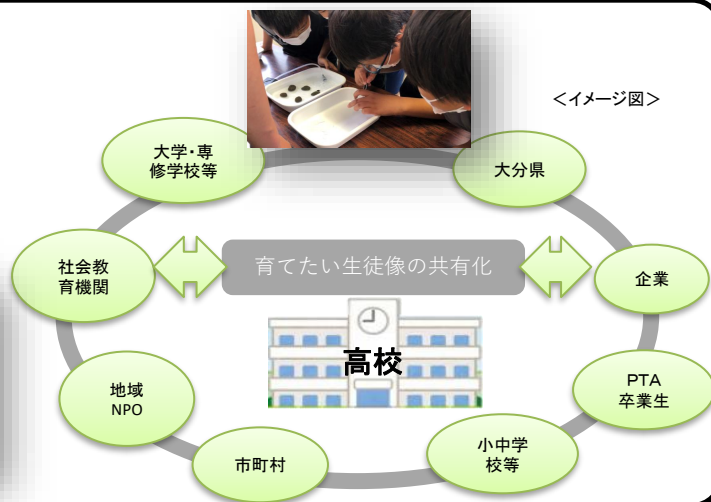
コンソーシアムの活用

- ・構築したコンソーシアム(共同事業体)において
身に付けさせたい力・育てたい生徒像の共有化



地域資源を活用できる環境づくり

- ・高校生が地域を学びのフィールドとし積極的に携わる
ことで、地元の魅力を知り、愛着心を育む



◆情報発信について

【現状】地域の方が、高校の取組に驚かれることがある

【課題】高校の取組状況について**情報発信**を強化